

避難誘導看板の設置についてはどうか。

A 総務部長 先月設置が完了した、蓮沼中学校の津波避難用外階段へ誘導するものが、縦1m、横1.5mの大きさで、空港道路沿いに1カ所。学校の敷地付近に、縦60cm、横60cmの大きさで、ソーラーLEDライト付の看板を3カ所設置しております。

また、年度内に完成予定の、緑海小学校の避難用外階段へ誘導する看板も、同じものを設置したいと考えています。市内には、このほか、避難方向を示す誘導看板がまだ未整備の状況です。これから整備予定の津波避難タワーである（仮称）蓮沼タワーへの誘導、また、山武市への来訪者に対しては、外国語の表記、夜間でも認識できる避難誘導看板について、企画、デザイン、設置場所等を検討し、安全・安心なまちづくりのPRにつなげていきます。

Q 避難誘導看板の統一化についてはどうか。

A 総務部長 既に津波避難場所、津波避難ビル、津波注意、これらの津波に関する標識につきましては、ISO規格やJIS規格として、現在、既に決まっています。その他については特に決まりがありませんが、やはりどこに行っても同じ看板で、常に判断ができることが必要であると考

えます。本当は国レベルでの統一が望ましいと思いますが、国の統一化の動向等を注視していきながら、地域での統一につきましましては、県を含め近隣の市町で検討ができればと思います。

関連質問



市川 陽子 議員

子育て施策について

Q 山武市総合計画後期基本計画のシテイセールの1本の柱の位置づけとなっている。子育てについての市民アンケートによると、教育費や医療費等の経済的不安が40・2%、子育てに対する不安が35・9%とあるが、子ども医療費助成の小学校6年生までの拡充はどうか。

A 市長 近隣自治体も進んでいるので、他市町村に見劣りしない施策をやっていければと思います。

A 保健福祉部長 子ども医療のあり方は、改めて見直す必要はあると判断しています。

消防団支援法について

Q 今年度補正、来年度予算のポイントの中に装備品、訓練の充実に活用できるとあるが、消防団の装備はどうか。

A 総務部長 消防団員は、火災・災害時の出動の際、常に現場の最先端で活動し、危険を伴うので、安全確保と危険防止のために、装備品を更新する上で、消防団と協議していきます。

また、平成26年度は、市役所車庫棟1階北側の駐車場スペースの一部に、消防団本部詰所を設置し、防災対策の強化を図ります。

Q 災害時における緊急の指令室として適正な場所と云ってよいのか。

A 総務部長 災害発生時に市と連携を図る際にいち早く情報を共有できるので、最適な場所であり、総合的な判断か

ら、消防審議会に諮り、了承を得て候補として予定している場所です。

Q 夜間の出動の際に、遠くから見てもわかりやすくするため、上着に反射ベストをつけてはどうか。

A 総務部長 未整備の分団、分団長、副分団長及び各部に反射ベストや誘導棒を整備していきます。

Q 総務省より、各自自治体職員の入団について、職務に支障がない限り務めるよう、今回、義務づけられた。市の現状はどうか。

A 総務部長 女性団員確保の取り組みのほ

か、男性職員にも、消防団加入をお願いしています。現在は475名中、36名加入しており、全員男性です。

Q それぞれの分担・役割を生かすために、広報や高齢者の訪問、災害時の各地域の避難所等においても、女性の視点で高齢者や障がい者の方の対応という観点で、機別消防団員についてはどうか。

A 総務部長 大規模な災害の時、できる範囲で活動して頂くという点では、今後検討する必要があると考えます。



ばと思います。

と判断しています。

であり、総合的な判断か



反射ベスト着用例